

白山麓中小企業景況調査報告書

平成 29 年 10 月～12 月実績

本アンケート調査は、白山商工会の経営発達支援計画*¹の一環として行っており、白山麓の経済動向の実態把握、小規模事業者等に対する各種支援の基礎資料といたします。なお、ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理して集計値を公開しておりますが、個々の事業所を特定できるデータの公開はしないこととしております。

* 1 : 「経営発達支援計画」について

人口減少・少子高齢化など社会情勢の変化により地域経済が転換期を迎えている中、地域小規模事業者の活力向上及びその持続的発展を目標に、平成 26 年 6 月に「小規模事業者振興基本法」が成立し、同年 9 月から施行されています。これに基づき本会でも「経営発達支援計画」を策定、平成 29 年 3 月に経済産業大臣の認定を受け、管内小規模事業者の支援を積極的に行っています。



白山商工会

《調査概要》

(1) 対象地区

白山商工会管内

(河内地区、吉野谷地区、鳥越地区、尾口地区、白峰地区)

(2) 調査期間

平成 29 年 10 月～12 月期 (調査時期：11 月下旬)

(3) 調査方法

商工会の経営指導員による巡回ヒヤリング調査

(4) 対象企業数

30 社・・・回答企業数：30 社 (回答率：100%)

売上規模	総計	
	人数	構成比
100万円以下	6	20.0%
100万円超500万円以下	13	43.3%
500万円超1,000万円以下	7	23.3%
1,000万円超2,000万円以下	3	10.0%
2,000万円超	1	3.3%
合計	30	100.0%

(5) D I とは：

D I とある記号は、調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から、減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を指す指標です。

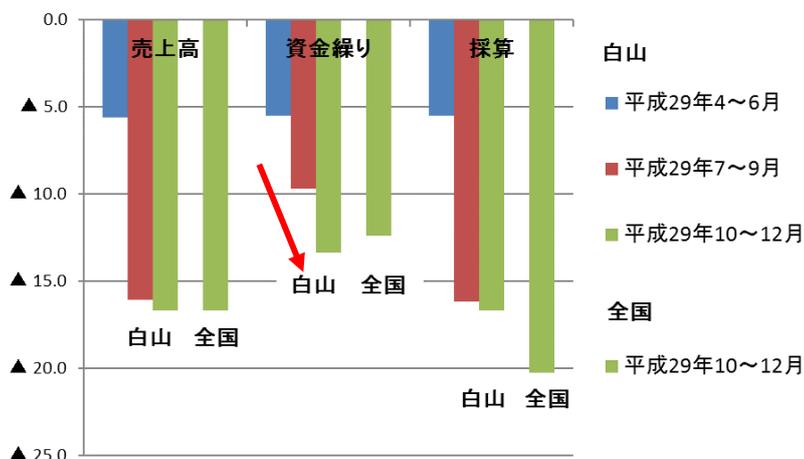
(6) 本調査報告書の作成日

平成 29 年 12 月 25 日

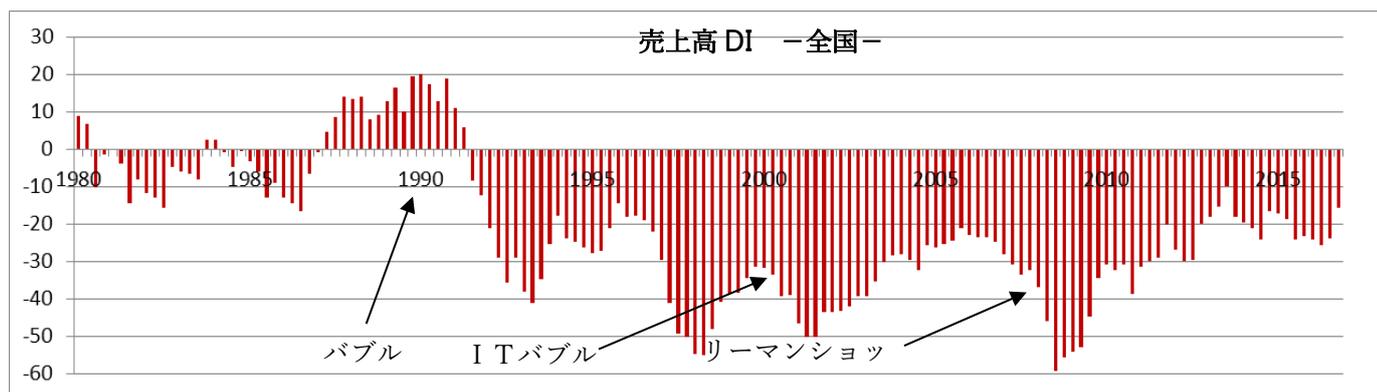
調査1. 白山商工会管内の「景況」の動向

(1) 「売上高・資金繰り・採算D I」の動向（前年同期比）

平成29年度第Ⅲ四半期の産業全体の景況動向について、白山商工会管内の実績値は、全国値と比べ、同水準となっている。なお、資金繰りに関しては、悪化傾向が顕著に表れている。



【全国の売上高D Iの推移（前年同期比）】

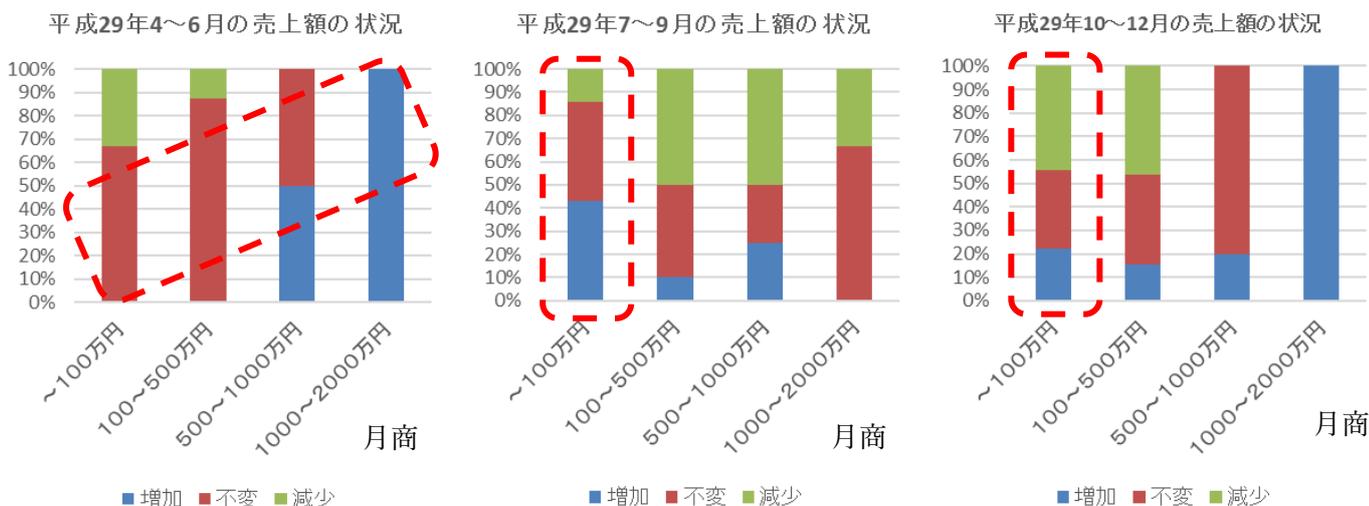


(2) 「業種別売上高」の動向（前年同期比）

	建設業		製造業		小売業		飲食業		宿泊業		飲食宿泊以外のサービス業	
	人数	構成比	人数	構成比								
増加	3	42.9%	1	20.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
不変	2	28.6%	2	40.0%	2	33.3%	3	50.0%	2	66.7%	1	50.0%
減少	2	28.6%	2	40.0%	3	50.0%	3	50.0%	0	0.0%	1	50.0%
合計	7	100.0%	5	100.0%	6	100.0%	6	100.0%	3	100.0%	2	100.0%

B to C（企業と個人間の商取引）の企業より、B to B（企業間の商取引）の企業の方が、業況が良い傾向にある。これは全国商工会連合会のレポートとも符合する。なお、レポートには、特に、従業員2名以下の小売業・サービス業において水準が低い傾向にあるとしている。

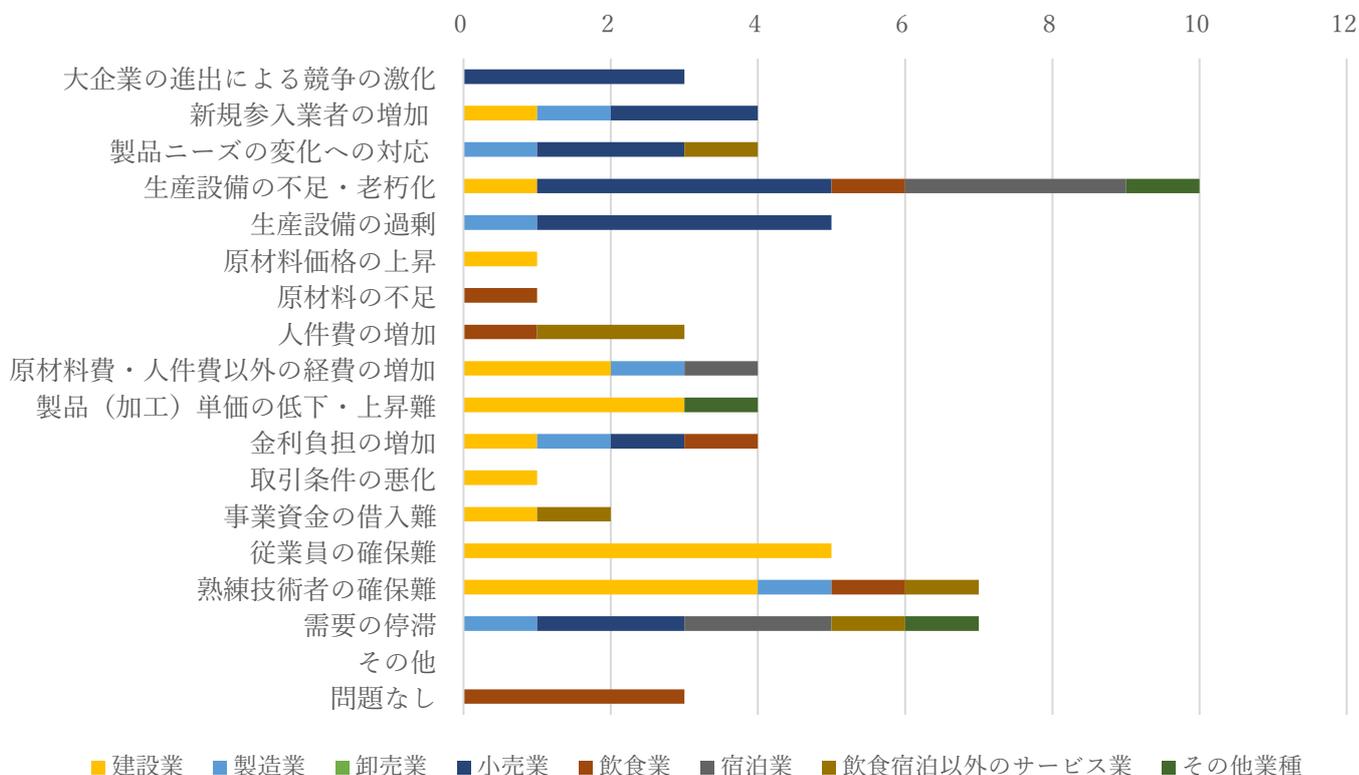
(3) 「売上規模別売上高」の動向（前年同期比）



平成29年4月～6月期では売上規模が小さいほど業績が悪かったが、平成29年7月～9月期では売上規模が小さいところが良い傾向、平成29年10月～12月期では一転して売上規模が小さいところが悪い傾向になっている。

調査2. 白山商工会管内の「直面している経営課題」

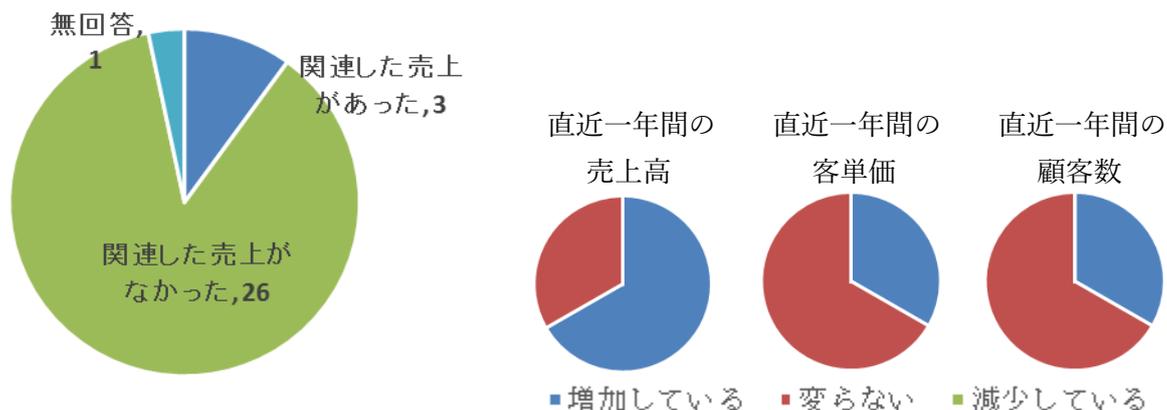
(1) 「直面している経営課題」の内訳



直面している経営課題は、設備の不足・老朽化と需要の停滞及び人材不足が突出して多く、直近期（平成29年4月～6月期）及び平成29年7月～9月期も同様であった。

調査3. 白山商工会管内の「北陸新幹線金沢開業の経済効果」

(1) 「北陸新幹線金沢開業に関連した売上（受注）」



北陸新幹線金沢開業に関連した売上高（受注）について、その効果は限定的であった。

なお、北陸新幹線金沢開業の恩恵を受けた企業は、開業以降直近まで、売上高（受注）・客単価・顧客数で増加或いは変わらないという回答をしている。

調査4. 白山商工会管内の「事業承継」について

(1) 「主要事業の将来性（5～10年先）と今後の事業継続についてどう考えているか」の関係

	総計		今後も成長が期待できる		成長力は期待できないが、維持・継続はそれなりに確保できる		現在は、まだ、市場があるが、規模は徐々に縮小していく		現在も縮小しており、成長は見込めない		わからない	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
廃業を予定	2	6.9%	0	0.0%	1	16.7%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%
現在の事業内容を軸に継続	17	58.6%	2	50.0%	3	50.0%	7	58.3%	2	50.0%	3	100.0%
現在の事業内容に関連した新たな事業分野へ進出・転出	4	13.8%	2	50.0%	0	0.0%	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
現在の事業内容とは全く異なる領域の事業分野へ進出・転換	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	6	20.7%	0	0.0%	2	33.3%	2	16.7%	2	50.0%	0	0.0%

主要事業の将来性（5～10年先）について「市場規模は徐々に縮小又は成長は見込めない」と考えている会社のうち、「現在の事業内容を軸に継続したい」としている企業が、調査対象全30社中9社を占めている。